



©Yuki Asada

伝統の“晴れ着”を日常にも

ガーナ南部のアシャンティ州には、式典や儀式などの特別な場で身に着ける伝統の衣装がある。鮮やかな原色と、独特な柄が目を引く「ケンテ」だ。大きな一枚布を全身に巻きつけるようにして着飾る。

「ケンテの魅力を他の国の人たちにも知ってもらいたい」。青年海外協力隊として、今年4月までガーナで活動していた丸山ちさとさんは、NGO「タツノオトシゴプロジェクト」を立ち上げ、普段の生活でも使えるケンテのショールやランチョンマットなどの生産・販売に取り組んでいる。商品は、障害者の自立支援のためのリハビリセンターで作られ、雇用の創出につなげることも目的の一つだ。

ケンテの特徴は、厚くてしっかりとした

生地。また色や柄にはそれぞれ意味があり、例えば、ジグザグ模様には「人生は真っ直ぐな道ではない」という意味が込められている。製作者の一人、ケネディ・オウスさんは、右足に障害を抱えながらも懸命に織機を動かし、10年以上にわたり培ってきた職人技で、複雑な模様も丁寧に仕上げている。現地にある観光客向けの店舗への出品に加えて、最近では、日本向けのオンラインショップでの販売も始めている。

「地域の伝統を大切にすることを忘れず、素材や柄に改良を加えながら素敵な商品を作っていきたい」と丸山さんは意気込む。ガーナで愛される特別な織物は、何気ない日常を明るく彩ってくれそうだ。



現地では色鮮やかなショールが作られている。一つの商品を一週間かけて製作することも

★ケンテのコースターとしおりを4人にプレゼント！
→詳細は38ページへ

★商品は、オンラインショップ「ta2nooto45」
(<http://ta2nooto45.base.ec/>)を通じて購入可能

